

インド法務ニュース

～使ってびっくり！インド便利アプリのご案内～

2024年9月

第1. はじめに

インドは、世界有数のIT大国として知られています。2016年に起業促進政策として「スタートアップ・インディア」を発表して以降、2023年にはスタートアップの会社数が10万社を超えており、こうしたスタートアップによって多くのスマホアプリも開発されています。

こうしたアプリの登場によって、インド現地での生活は一変したと言われます。10年前に現地駐在していた先輩弁護士によると、インドのドライバーは地図を読めず、ランドマークを見つけた後は、町行く人々に聞き込みを行って、正誤の混在した情報にまみれながら、何とか目的地を見つけ出すという状況でしたが、今ではどのドライバーも地図アプリを使っているため、目的地探しはスムーズになりました。同様に、注文した荷物がいつ届くかわからずに悠久の時間の流れに身を委ねるしかなかったのが、AmazonやFlipkartの登場によって、荷物を待つストレスも激減しました。

今回のニュースでは、現在インド駐在中の長泉地が、無数にあるスマホアプリの中から、実際にインド国内で生活する上で特に有用と感じているアプリをご紹介します。後半では、法務や手続の観点から、こうしたアプリを使うために必要な準備についてご案内します。

インド駐在中の皆様は既にご存知のものばかりかも知れませんが、これから駐在される方、あるいはインドの現地事情にまだ詳しくない方には、現地の生の声として参考にいただければ幸いです。

1. 食品配達アプリ

インドの都市部は、道路が渋滞するという課題を有しており、外にご飯を食べに行く際に予期せぬ渋滞に巻き込まれ、お腹が空いてしまうというリスクがあります。このような状況を避けるために、食品配達アプリが非常に人気です。総じて、食品配達アプリは以下の特徴を有しています。

- ① 高速配達: 料理を家やオフィスなどに届けてもらうことができます。支払いはアプリ内で行います。バイク便で30分から1時間程度で届くことが多いです。有料会員になると、割引など様々な特典を受けることができます。
- ② 予約機能: アプリによっては、アプリ内でレストラン予約をすることも可能です。レストランで使用することができるクーポンもアプリ内で配布されています。

(1) Zomato

Zomatoは、グルガオン（グルグラム）に本社を置くZomato社が運営するアプリです。従来のレストラン検索やテーブル予約、レビュー投稿に加えて、食品配送も行っており、包括的なユーザーエクスペリエンスを提供しています。また、インド国内のみならず世界24カ国以上

に展開を行っています。多くのレストランのメニューが写真付きでアプリ内で確認できるため、事前に食べたい料理を選ぶことができます。

(2) Swiggy

バンガロール（ベンガルール）に本社を置く Swiggy 社が運営する Swiggy も、Zomato と同様食品配達アプリとして人気ですが、後記のとおり Swiggy Instamart として日用品や食材の配達も行っている点が強みです。Zomato と Swiggy はそれぞれ異なる割引やプロモーションを提供しており、手数料の設定も異なる場合があるため、それぞれを比較してみるとよりお得かもしれません。

2. 日用品、食材配達アプリ

インドでは、道路が渋滞するといった問題に対処するために、以下の特徴を有する日用品、食材配達アプリが人気です。

- ① 超高速配達: 最大の特徴は、注文から数分で商品が届くことです。通常、バイク便により 10~20 分程度で商品が手元に届くため、緊急で必要なものを入手することができます。
- ② 商品ラインナップの充実: 食材、日用品、飲料など、さまざまな商品が揃っています。必要なものがほとんど揃うため、外出して買い物をする必要がありません。
- ③ インターフェイス: 注文した商品の配達状況を地図上でリアルタイムに確認できるため、おおよその到着時間を把握することができます。

(1) Blinkit

Blinkit は、グルガオン（グルグラム）に本社を置く Grofer 社が運営する日用品や食材等のデリバリーサービスです。地域によって販売されているものが異なるほか、iPhone 版と Android 版で取扱商品が若干違うこともあるようです（特に酒類やタバコ類など）。

(2) Swiggy Instamart

Swiggy の一部として提供されているオンデマンド配達サービスで、食料品や日用品を迅速に配達します。Blinkit と同様、スーパーやコンビニ等で取り扱われるような商品を短時間で配達することにフォーカスしています。

3. 医薬品配達アプリ

インド国内では以下の特徴を有する医薬品配達アプリが人気です。

- ① 医薬品等のオンライン注文: 医薬品やヘルスケア商品をオンラインで注文することができます。これにより、外出して薬局に行く手間が省けます。インドでは医師の処方箋なしに購入することができる医薬品が多く、そのような医薬品を簡単にアプリから注文することができます。注文した医薬品は当日または翌日に手元に届くことが一般的です。
- ② 製品ラインナップ: 医薬品以外にも、スキンケア、パーソナルケア、フィットネス製品など、医薬品以外にも多数の商品を購入することが可能です。
- ③ 医師への相談サービス: オンラインで医師に相談できるサービスも提供されています。
- ④ 検査予約: 血液検査、その他の検査の予約及び結果閲覧をオンラインで行うことができます。

(1) **TATA 1mg**

TATA 1mg は、グルガオン（グルグラム）に本社を置く TATA 1mg 社が運営する医薬品のデリバリーサービスです。インドの財閥である TATA グループの系列であり、ブランド力が強いです。

(2) **PharmEasy**

TATA 1mg とほとんど同じ機能を有していますが、TATA 1mg はオンラインで医師に相談できるサービスを提供しており、診断や処方箋の取得が可能である一方、PharmEasy は主に薬の配送と健康診断に注力しているアプリです。

4. タクシー配車アプリ

インドの都市部では電車等の公共交通機関が発展しておりますが、車やオートリキシャでの移動が便利です。以下のアプリを使うと、簡単にタクシーやオートリキシャを呼ぶことができます。

(1) **OLA**

OLA（オラ）は、バンガロール（ベンガルール）に本社を置く ANI Technologies 社が運営するタクシー配車アプリです。インドでは Uber と OLA が配車アプリとして人気ですが、Uber と OLA 両方を使用できる状態にしておくと、タクシーが捕まる確率が上がります。

(2) **Uber**

Uber は、日本国内では食品配達アプリとして有名ですが、インドではタクシー配車アプリとして有名です。OLA との違いはほとんどありませんが、OLA（オラ）は、バンガロール（ベンガルール）に本社を置く ANI Technologies 社が運営するタクシー配車アプリです。インドでは Uber と OLA が配車アプリとして人気ですが、Uber と OLA 両方を使用できる状態にしておくと、タクシーが捕まる確率が上がります。

なお、Uber をインド国内で利用する場合、基本的には国際クレジットカードを登録することができないのですが、事前に日本国内で Uber にクレジットカード情報の登録をしておくと、そのまま日本国内のクレジットカードを使用してインド国内で Uber を利用することができます。

5. コミュニケーションアプリ

(1) **WhatsApp**

WhatsApp はインドで非常に人気が高いコミュニケーションアプリです。インドは WhatsApp の最大市場であり、何億人ものユーザーが日常的に、仕事でもプライベートでも利用しています。私が把握している限り、インド人はもちろん、インドに駐在している日本人も全員 WhatsApp を利用しています。

LINE と異なり、一定時間内であれば送信した文章を編集することができるのが便利です。

(2) **Telegram**

Telegram は、日本国内でもニュース等で聞く機会があるかと思いますが、メッセージ自動消去機能などの特殊な機能があるコミュニケーションアプリです。インド人が仕事やプライベートで利用しているのを見ることがあります。

第2. アプリを使いこなすために必要な手続

上記の各アプリはいずれも非常に使い勝手が良く、生活をより豊かにより便利にすることができます。ただし、これらのアプリ上で決済するためには、インターナショナルクレジットカードや現金決済が不可能なものが多いです。そのため、インドのクレジットカードを用意するか、UPI (United Payments Interface) に登録する必要があります。現金決済可能なものもありますが、「お釣りを持っていない」と言われて多めに払わされる可能性を考えると（※以前は実際には小銭を持っていても「持っていない」と言っているだけの可能性がありましたが、電子決済が普及した今、実際に持っていなくても不思議ではありません。）、やはり電子決済が便利です。

UPI というのは、日本はもちろんインド以外では聞き慣れない言葉ですが、インド国内では広く利用されている、2016年にインド国立決済公社 (NPCI) が導入した電子決済システムです。例えば Paytm や PhonePe という電子決済アプリがUPIをサポートするアプリの代表格で、これらのアプリを用いることで、UPIを使用した決済が可能になります。ただし、UPIを使用するためには、以下の各手続が必要になります。

1. 銀行口座の開設

UPIを使用するためには、インド国内の銀行口座と紐づいているデビットカードが必要になります。そのため、まずはインド国内で銀行口座を開設する必要がありますが、銀行で銀行口座開設作業を始める前段階として、以下2から4の各手続が必要になります。

2. 携帯電話番号の取得

銀行口座開設のためには、開設時にSMSでOTP (ワンタイムパスワード) を受信するためにインド国内の携帯番号を契約しておくことが望ましいです。日本の電話番号でも登録は可能ですが、SMSの受信がうまく行かないことがあります。

また、インド国内で電子決済アプリや上記各アプリを使用するためには、インドにおいてSIMカードを契約し、インド携帯電話番号を取得する必要があります。インド携帯電話番号を取得するためには、大きく分けてプリペイドSIM又はポストペイドSIMを取得する方法がありますが、プリペイドSIMはインドの通信会社であるAirtelの店舗に行き、パスポートを提示する等の手続を経た上で契約することができます。ただし、プリペイドSIMに追加チャージをするためには、インターナショナルクレジットカードを使用することはできません。

ご参考までに、インドのジャンムー・カシミール地方やラダック地方では、域外で契約したプリペイドSIMを使用することはできないため、ご留意いただければと思います。

3. PAN 取得

PAN (Permanent Account Number) は、インドにおける納税者識別番号で、インド国内での納税や金融取引を管理するための重要な ID です。PAN はインドの所得税局 (Income Tax Department) によって発行される番号です。

4. FRRO 登録

FRRO (Foreigners Regional Registration Office) は、インドに滞在する外国人の登録やビザ関連の手続きを管理する政府機関です。FRRO は、インド国内で長期間滞在する外国人が、法律に従って登録・報告を行うために設置されています。インドに継続して 180 日以上滞在する予定の外国人は、インド到着後 14 日以内に FRRO に登録を行う必要があります。

第3. 最後に

これまでにご紹介したアプリ以外にも、インドでは様々な便利なアプリが存在します。しかし、実際に利用するにあたっては、第2で言及した各手続きが必要になります。特に、PAN 取得や FRRO の登録については、必要な手続や書類が頻繁に変更されるためご注意ください。

インド国内で必要とされる各手続について、ご不明点やお困り事がありましたら、インド愛知デスクまでお気軽にお問い合わせください。

◆◆ 発行情報 ◆◆

■発行元

松田綜合法律事務所 (2024 年度インド愛知デスク運營業務受託者)

担当：弁護士 長泉地薫大

〒100-0004 東京都千代田区大手町二丁目1番1号 大手町野村ビル10階

TEL: 03-3272-0101 (代表) FAX: 03-3272-0102

事務所HP：www.jmatsuda-law.com

過去のニュース記事はこちら：<https://jmatsuda-law.com/india-aichi-desk/>